

表彰盾  
カーボンフットプリント  
算定報告書

2026 年 3 月

株式会社那賀ウッド

## 1. CFP 算定の目的

表彰盾における材料調達から廃棄までの CO2 排出量を算定するとともに、本製品における炭素貯蔵量を算出することで、森林・木材の CO2 削減効果を可視化することを目的とします。

## 2. 製品のライフサイクルと使用したシナリオ

### ○製品種別

本算定における表彰盾は、以下の仕様です。

主素材：木頭杉（徳島県那賀町産）

大きさ：高さ 25cm、幅 11cm

重 量：260g

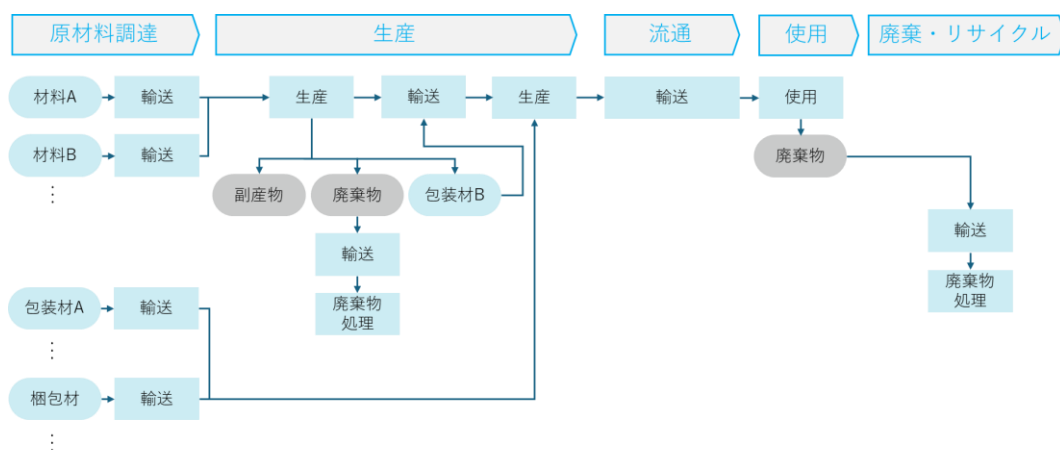
### ○算定単位（機能単位）

1 個

### ○カットオフ基準

- ・ 生産工場などの建設に係る負荷
- ・ 投入物を外部から調達する際に使用される容器包装や輸送資材の負荷
- ・ 副資材のうち、マスク、軍手などの汎用的なものの負荷
- ・ 工程内で重量比が計 5 % 以下の負荷

### ○システム境界とライフサイクルフロー



### 3. データ情報

データ収集範囲に含まれるプロセス/データ収集項目は以下のとおりです。

#### ① 原材料調達段階

- ・ 原材料の製造および輸送に係るプロセス
- ・ 包装資材の製造および輸送に係るプロセス
- ・ 梱包資材の製造および輸送に係るプロセス

#### ② 生産段階

- ・ 本体の生産（木材加工、接着、梱包等）プロセス
- ・ サイト間輸送プロセス
- ・ 廃棄・リサイクルプロセス

#### ③ 流通段階

- ・ 出荷品の輸送プロセス

#### ④ 使用段階

※展示のために使用する電力等は算定外

#### ⑤ 廃棄・リサイクル段階

- ・ 使用済み製品の廃棄・リサイクルプロセス
- ・ 廃梱包資材の廃棄・リサイクルプロセス

### 4. 算定結果

本製品におけるライフサイクル全体の CO2 排出量は左表のとおりです。

なお、樹木は、光合成によって大気中の二酸化炭素を取り込み、幹や枝等の形で炭素を蓄えます。樹木の生長段階における大気中の CO2 吸収量を踏まえて CO2 排出量を算出した場合、右表のとおりとなります。

カーボンフットプリント

| 工程       | CO2 排出量<br>(kg-CO2e) |
|----------|----------------------|
| 原材料調達    | 1.104                |
| 生産       | 0.478                |
| 流通       | 0.394                |
| 使用       | 0                    |
| 廃棄・リサイクル | 0.084                |



炭素貯蔵を考慮した場合の  
カーボンフットプリント

| 工程                | CO2 排出量<br>(kg-CO2e) |
|-------------------|----------------------|
| 原材料調達             | 1.104                |
| 生産                | 0.478                |
| 流通                | 0.394                |
| 使用                | 0                    |
| 廃棄・リサイクル          | 0.084                |
| 光合成による<br>CO2 吸収量 | -0.477               |

## 5. 調査の限界と将来の方向性

### ○算定における課題点・不確実性

データ取得が困難な場合にシナリオを設定しています。

|                                                              |                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 木材加工のため<br>工場で使用する電力                                         | 実測値の取得が困難なため、機械の規格値を使用                                                                                                                   |
| 輸送について拠点が<br>多い、または事前に<br>拠点の決定ができな<br>い場合の輸送距離、<br>輸送手段、積載率 | 町内もしくは近隣市間に限定されることが確実な輸送<br>の場合<br>：＜輸送距離＞50km<br>＜輸送手段＞10tトラック（軽油）<br><br>特定地域に限定されない輸送（国内に限る）の場合<br>：＜輸送距離＞1,000km<br>＜輸送手段＞4tトラック（軽油） |

### ○今後のモニタリング・再算定の考え方

シナリオの設定による算定をした部分は、今後取得可能になった際は実測値を使用  
機械設備や輸送トラックなどが変更された場合は、そちらのデータを使用

## 6. 採用ルール

○ISO14067:2018 を参照した CFP ガイドライン（経済産業省・環境省）を参照

○使用した活動量/排出原単位は以下に記載

- ・算定手順書（2026 年 3 月）
- ・アスエネ LCA

○使用した排出原単位は以下から取得

- ・（一社）サステナブル経営推進機構「CORD Ver.1.1」
- ・環境省「排出原単位データベース Ver.3.5」
- ・環境省・経済産業省「（令和 6 年/2024 年）電気事業者別排出係数」

○炭素貯蔵量は以下に則って算出

- ・建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン（林野庁）